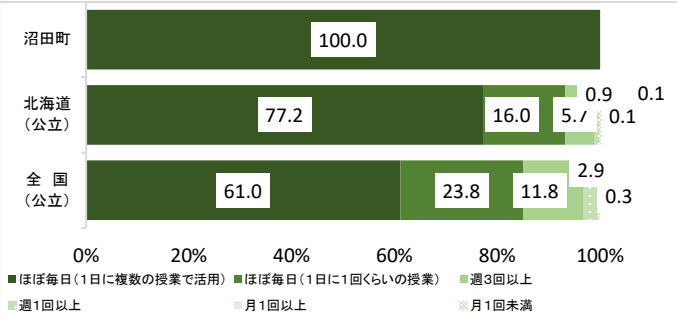


○ 質問調査の状況

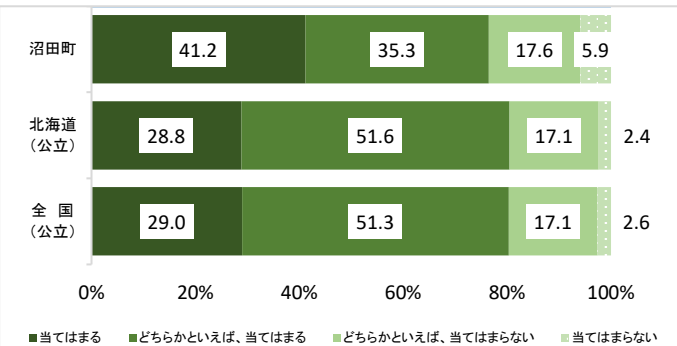
小学校
＜学校質問＞

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。



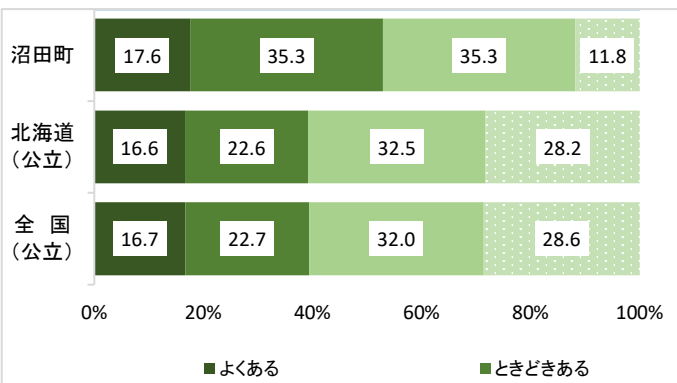
小学校
＜児童質問＞

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



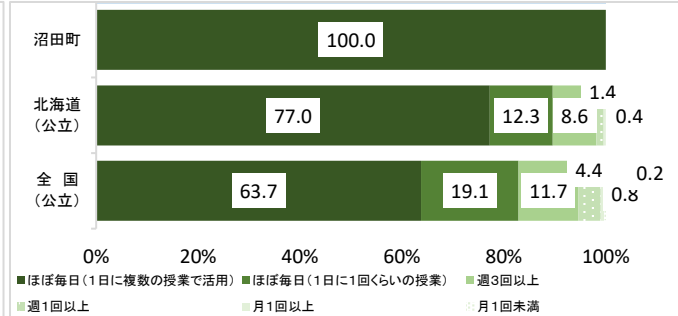
小学校
＜児童生徒質問＞

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。



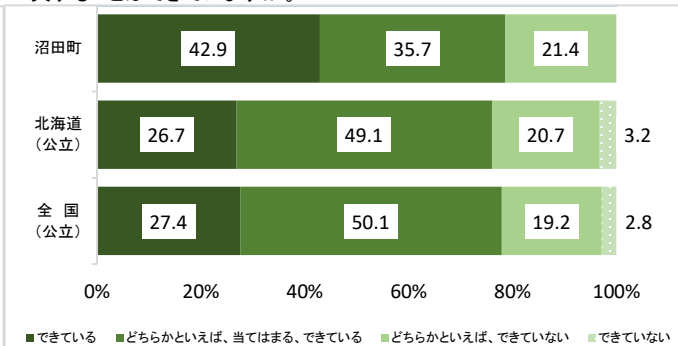
中学校
＜学校質問＞

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

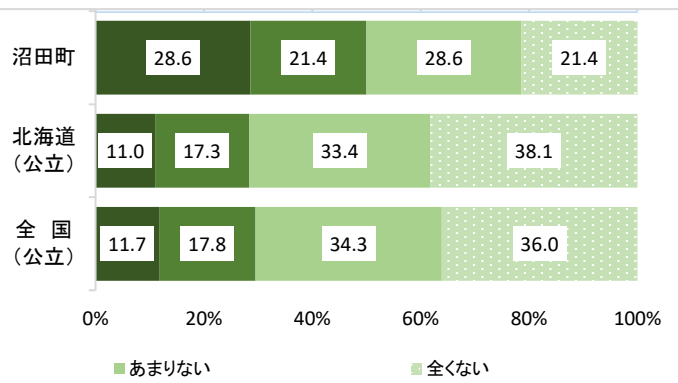


中学校
＜生徒質問＞

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



中学校



○ 調査結果の分析

・小・中学校において、タブレット等のICT機器の活用が日常的に行われており、児童生徒も機器を使用した各能力が身に付いていると自認している。機器を活用することで、協働的な学びも実践されており、それが「自分と違う意見について考えることができる」、「話し合いを通じて考えを深めることができる」という質問にも好影響として表れていると考えられる。

・小・中学校において、主体的に学んでいるかという問いに対し、「当てはまる」と回答している児童生徒が多い。各教科の授業の中で課題を設定し、解決に向けて話し合い表現するという学習活動を長く継続しており、これらの活動に児童生徒が主体的に取り組んでいることが「自分の考えをまとめること」や「工夫して発表すること」にも好影響と表れていると考えられる。

・小・中学校の半数以上の児童生徒において、地域の大人との関わりがある。日常的に学校集団とは異なるコミュニティに属する大人との関わりがあることは地域ならではの特色であり、地域に開かれた学校としての姿勢や、児童生徒の育ちや学びを地域全体で支えるという本町の教育活動についての児童生徒の認識が表れているものと考えられる。

○ 今後の改善方策

・児童生徒の苦手分野を中心として、系統的に指導方法の工夫改善を図る等、今回結果を踏まえた授業改善。

・読書習慣の形成に向けた校内環境の整備及び学習活動を実施することによる、児童生徒の「読むこと」を中心とした資質・能力の育成。

・望ましい生活習慣・家庭学習の定着に向けた家庭学習計画表の作成及び実施のほか、町の事業である長期休業中及び平日の「学習サポート事業」等の学力向上対策事業の推進。